

令和 4 年度
教職課程
自己点検評価報告書

北星学園大学

令和 5 年 3 月

北星学園大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・文学部（英文学科，心理・応用コミュニケーション学科）
- ・経済学部（経済学科，経営情報学科，経済法学科）
- ・社会福祉学部（福祉計画学科，福祉臨床学科，福祉心理学科）
- ・大学院：文学研究科（言語文化コミュニケーション専攻）
 - ：経済学研究科（経済学専攻）
 - ：社会福祉学研究科（社会福祉学専攻）

大学としての全体評価

本学においては、設置されているすべての学部・研究科において教職課程の認定を受けており、それぞれ下記の教員免許を取得することができる。

文学部英文学科においては、中学校教諭一種免許および高等学校教諭一種免許（英語）、同心理・応用コミュニケーション学科においては中学校教諭一種免許（社会）および高等学校教諭一種免許（公民）、経済学部経済学科では中学校教諭一種免許（社会）および高等学校教諭一種免許（地理歴史）・同（公民）、同学部経営情報学科では高等学校教諭一種免許（商業）・同（情報）、同学部経済法学科では中学校教諭一種免許（社会）および高等学校教諭一種免許（公民）、社会福祉学部福祉計画学科では中学校教諭一種免許（社会）および高等学校教諭一種免許（公民）、同福祉臨床学科では中学校教諭一種免許（社会）および特別支援学校教諭一種免許、同福祉心理学科では高等学校教諭一種免許（公民）および特別支援学校教諭一種免許の各免許状を取得することができる。また、大学院各研究科において同一学校種・教科の一種免許状を有していることを条件に所定の単位を取得することでそれぞれの専修免許を取得することができる。

以上のような教職課程が全学的観点から運営され、同課程の水準の維持・向上のために2022年度から教職課程センターが設けられている。同センターの委員は教職科目担当者、教科教育法担当者、教育職員免許法施行規則第66条の6の科目担当者、および各学科の教科に関する科目担当者に加えて教育支援課第2課長および第3課長によって構成されている。また、教育実習や教員採用試験等に向けて学生を支援するために教職支援室が設けられ、高等学校の教職経験を有する2人の支援員が日常的に学生サポートにあたっている。

以上のような形で本学の教職課程は運営されているが、大学として次のような点に留意した課程運営を期待するところである。ひとつは、教職課程履修者が2015年度以降1年次において100名前後で、最終的に免許申請をするのは同じく2015年度以降40名台であることに関わる。結果的に、教員免許取得希望者の半数強が免許取得を断念しているわけで、ここに不本意な断念があるとすると、そうした断念を低減するための工夫を模索したいところである。いまひとつは、既述のとおり人的にも文字どおり全学的な組織として教職課程センターが設けられたが、教職科目担当教員と教科専門科目担当教員のより良い〈協働〉のあり方の模索である。

学長 大坊 郁夫

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく 協働的な取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	総合評価	11
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	12

I 教職課程の現況及び特色

1. 現況

(1)大学名：北星学園大学

(2)学部名：文学部 経済学部 社会福祉学部

大学院：文学研究科，経済学研究科，社会福祉学研究科

(3)所在地：北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

(4)学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 文学部 教職課程履修 114名／学部全体 985名

※一般科目等履修生 教職課程履修 1名／3名

経済学部 教職課程履修 56名／学部全体 1,639名

社会福祉学部 教職課程履修 88名／学部全体 1,059名

大学院 教職課程履修 1名／大学院全体 28名

(令和4年4月1日現在)

教員数： 文学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）20名／学部全体 31名

経済学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）35名／学部全体 47名

社会福祉学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）21名／学部全体 35名

大学院 教職課程科目担当（教職・教科とも）33名／大学院全体 51名

※専任教員数

2. 特色

本学は、キリスト教を教育方針の土台におき、「実生活においてさまざまな義務と責任を全うしうる知識の教授と、宗教的・霊的影響による人格の育成」を建学の精神とする学校法人北星学園の大学であり、教職課程としては、次のようなディプロマ・ポリシーのもと教育を行っている。すなわち――

- 「1. 人を育てる活動に対する情熱や目的意識をいつまでも持ち続けることができ、自分を愛するように児童・生徒や保護者に寄り添い、理解し、連携することに努力を惜しまない教師。
2. 教科専門に関する学問的知識や教育的指導力の研鑽に努め、教師としての教養や技能・実践力を身につけ、責務の自覚を兼ね備えた教師。
3. 総合的な人間力としての主体性や積極性・行動力を発揮し、コミュニケーション能力を駆使して、チームワークや協調性を大切にし、社会に貢献する独立人としての教師。」

教職課程を運営するために教職科目担当者と教科専門科目担当者の両方によって構成される全学的な組織としての教職課程センターを設置している。

教育実習、教材研究（ICT 機器の活用を含む）、教員採用試験等に向けて学生をサポートするために、高等学校での教職経験を有する支援員を擁する教職支援室をおいている。

聖徳大学（千葉県松戸市）通信教育部と提携し、同大学が提供する「小学校教諭1種免許取得プログラム」を通じて、本学が課程認定を受けている中学校教諭一種免許状を元に、卒業と同時に小学校教諭一種免許状を取得することが可能となっている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

[現状説明]

本学の教育目標は、「人間性・社会性・国際性」の育成であり、2004年度からは、それを十分に活かしつつ、キリスト教を基に創設された北星学園に属す大学として、建学の精神を高等教育によりふさわしい形で展開するために、基本理念を以下のように定めた。

本学は、プロテスタンティズムを建学の精神とする北星学園に属す。北星学園大学の基本は知的誠実である。それは、神の前で自己や自国を相対化し、謙虚に学びつづける姿勢である。「神を畏れることは知識の初めである」（旧約聖書：箴言1章7節）。

自他の人格の尊厳を知り、人間を何かの手段と見ないキリスト教的価値観が、本学の営みの根底に潜む。見識を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人を養成することが、本学の目標である。それは、抑圧や偏見から解放された広い学問的視野のもとに、異質なものを重んじ、内外のあらゆる人を隣人と見る開かれた人間である。

そういう意味での自由を本学は目指している。『真理はあなたがたに自由を得させるであろう』（新約聖書：ヨハネによる福音書8章32節）。

本学は、開学以来、地域・社会・世界に開かれた大学を目標としているのである。

しなやかな精神的骨格を持った、個性ある大学として、時流や利害に流されない独立した人格を学生のうちに育てたいという願いが、この文言には強く込められている。

上記の建学の精神に基づき、文学部、経済学部、社会福祉学部、文学研究科、経済学研究科、社会福祉学研究科では、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを設定し、全教職員に周知している。さらに、教職課程センター運営委員会では、建学の精神及び3ポリシーに基づき、2013年度から下記のディプロマポリシーを策定し、育成する教師像を全教職員に周知している。

1. 人を育てる活動に対する情熱や目的意識をいつまでも持ち続けることができ、自分を愛するように児童・生徒や保護者に寄り添い、理解し、連携することに努力を惜しまない教師。
2. 教科専門に関する学問的知識や教育的指導力の研鑽に努め、教師としての教養や技能・

実践力を身につけ、責務の自覚を兼ね備えた教師。

3. 総合的な人間力としての主体性や積極性・行動力を発揮し、コミュニケーション能力を駆使して、チームワークや協調性を大切にし、社会に貢献する独立人としての教師。

[長所・特色]

本学教職課程のディプロマポリシーは、本学の建学の精神である「人間性・社会性・国際性」の育成、自他の人格の尊厳を知ること、人間を何かの手段と見ないキリスト教的価値観、見識を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人の養成、抑圧や偏見から解放された広い学問的視野のもとに、異質なものを重んじ、内外のあらゆる人を隣人と見る開かれた人間の育成、を強く反映した内容となっている。

[取り組み上の課題]

まず、教職課程のディプロマポリシーは、Web サイトと教職課程履修ガイドに掲載されている。しかし、その内容を直接、学生に伝えることができる機会は、毎年度当初に学年別に行う教職課程のガイダンス時と1年次開講科目の「教職入門」となっており、学生への周知が十分でない可能性がある。次に、教職課程センター委員会は、教職課程センター所属教員と全8学科からの教員1名ずつから構成されている。学生への周知と同様、教職課程のディプロマポリシーを各学科の委員を通して、各学科に所属する教員への周知を行っていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・北星学園大学 建学の精神

https://www.hokusei.ac.jp/ideal/founding_principle/ (参照日 2023年3月1日)

- ・北星学園大学 教育研究目的と教育方針

<https://www.hokusei.ac.jp/ideal/policy/> (参照日 2023年2月20日)

- ・北星学園大学教職課程センター 育成する教師像(ディプロマ・ポリシー)

https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/policy_torikumi/ (参照日 2023年3月1日)

- ・北星学園大学教職課程履修ガイド 2022年度版

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[現状説明]

本学教職課程を運営する全学的組織として、2022年度から「教職課程センター」が発足した。教職課程センター委員会の構成員は、センター長、主に教職に関する科目担当する教職課程センター所属教員、全8学科からの教員1名ずつ、教職課程担当の事務職員である。全8学科からの教員は、教科に関する科目を担当する各学科所属教員と連携し、学生の教科指導力向上のための中心的な役割を果たすことが期待されている。また、教職課程センター

の下に、4年次の教育実習、教育実習事前事後指導、教職実践演習や3年次以下の教職課程に関するガイダンスなどの円滑な運営のために、センター長、教職課程センター所属教員及び事務職員から構成される「教職課程運営部会」を設置している。

さらに、教職課程センターの下に、「教職支援室」が設置され、教職を目指す学生をサポートする教職支援員2名が勤務している。教職支援員は2名とも中等教育の教職経験者である。教職支援室では、教育実習、教員採用試験、履修相談などに関する学生への支援を行っている。また、教職支援室には、文部科学省検定済み教科書、副教材、電子黒板などを備えており、学生の教材研究、ICT活用能力の向上、教員採用試験対策などに役立てられている。

[長所・特色]

教職課程に関する全学的組織として、教職課程センターが設置され、各学科・部門との共通理解の下に、教職課程を運営する体制を整えている。教職支援室に勤務する教職支援員2名は、ともに中等教育の教職経験者であり、その経験を生かして、教職を目指す学生に対するさまざまな支援を行っている。

[取り組み上の課題]

各学科の学科専門科目と教職に関する科目との融合による高度な教科指導力を育成するため、各学科からの教職課程センター運営委員と教職課程センター所属教員との連携、適正な役割分担を検討していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・北星学園大学 教職課程センター規程
- ・北星学園大学 教職支援室について

https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/teach_fa/ (参照日 2023年3月1日)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

[現状説明]

本学教職部門は、2022年度から教職課程センター委員会として全学組織となった。2021年度までの教職部門では、本学の建学の精神に基づき、教職課程で学ぶ学生像を既述のようにディプロマポリシーとして明確にし、学生に配布する「教職履修ガイド」や大学のホームページにも掲載にしてきた。これは、2022年度からのこのディプロマポリシーについては、1年次開講科目の「教職入門」の初回の授業時に解説をしている。教員育成のプロセスについては、1年次からの系統的なカリキュラムをベースに、毎年度当初の学年別教職課程ガイダンスにおいて、各学年における教職課程履修の意義と目的を理解させるとともに、「教職

履修カルテ」の作成と利用による教職への意識付けを行っている。

また、各学科の専門科目として展開される教科に関する科目を担当する学科教員が、教育実習の際に学生が作成した指導案を当該学問領域の専門家の眼で読む機会を 2022 年度から設け、学科教員が「指導案」を通じて教職志望の学生への指導に関わる契機とした。

さらに、実践的・臨床的経験を積ませるため、教育現場におけるボランティアにも積極的に取り組んでおり、北海道教育委員会、札幌市教育委員会と連携した学校ボランティアにも取り組んでいる。また、教職を目指す学生へのサポートとして、学内に「教職支援室」を設置しており、中等教育の教職経験者 2 名が教職支援員として常置し、学生へのサポートを行っている。

[長所・特色]

学生に対して、教職課程履修の意義と目的を十分に理解させるため、1 年次だけでなく、2 年次以降の学生に対しても、毎年度当初に学年別に教職課程ガイダンスを行っている。また、教職履修カルテを活用した教職課程への意識付け、「指導案」を通じての学科教員の教職課程への関わり、教育委員会との連携による教育現場におけるボランティア活動への取り組みを積極的に行っている。

[取り組み上の課題]

2022 年度から全 8 学科からの教員 1 名ずつが、教職課程センター委員として加わった。今後は、「教職支援室」や教職課程センター所属教員だけではなく、各学科の教職課程センター委員を通して、各学科の専門科目・演習の担当教員も含めて、教職を目指す学生の育成・支援に取り組んでいきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・北星学園大学 建学の精神

https://www.hokusei.ac.jp/ideal/founding_principle/ (参照日 2023 年 3 月 1 日)

- ・北星学園大学教職課程センター 育成する教師像(ディプロマ・ポリシー)

https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/policy_torikumi/ (参照日 2023 年 3 月 1 日)

- ・北星学園大学教職課程履修ガイド 2022 年度版

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

キャリア支援では、教職課程センターだけではなく、キャリアデザインセンター、就職支援課と連携して、学生の適性や意欲に応じた支援を行っている。

教職課程センターでは、入学から卒業までの 4 年間を通じた教職に関するキャリア支援を行っている。1 年次では、教職課程ガイダンスにおいて、教職に対する自覚と責任を促す

とともに、2年次からの学生ボランティアや3年次の各教科教育法による実践的・臨床的知識や経験の蓄積を積むこととしている。さらに、すべての学生が参加できる水曜日3講目の「キャリアデザイン」の時間を利用して、2つのプログラムを実施している。その一つは、3年次の教育実習事前指導で、教育実習を終えた4年生からの教育実習体験報告と教育実習受入校の教員を招いての講話を、3年次の教育実習予定者全員に受講させている。もう一つは、教員採用試験合格者による報告会であり、1年次から3年次の教職志望者全員が参加できるようにしている。また、4年次では、教員採用予定者とすべての教職志望者を対象に、本学を卒業した現職の教員を招き、採用予定者オリエンテーションも開催している。

キャリアデザインセンター、就職支援課でも、教職に関するキャリア支援を行っている。教職課程センターと同じく、すべての学生が参加・受講できる水曜日3講目の「キャリアデザイン」の時間に、教育委員会の採用担当者を招いての教員採用試験説明会や卒業生の現職教員を招いての講話などを実施し、学生の教職へのモチベーションを高め、維持していくことができるようにしている。

本学では、北海道や札幌市を中心に数多くの教員を輩出しており、すでに管理職として定年退職した卒業生や現在管理職の卒業生も多く活躍している。教職支援室や就職支援課には、卒業生から期限付き教員の求人に関する問い合わせが数多く寄せられている。教職支援室と就職支援課が連携し、4年生の教職志望者と卒業生の教職志望者へのキャリア支援として、期限付き教員の斡旋も行っている。

本学には、学校の管理職及び教育委員会の指導主事などの行政職などの職にある卒業生の集まり「スミス会」が組織されている。教職に関する科目に臨時講師、教職支援室での勉強会や説明会の講師など、教育現場の最新情報を常に学生に提供することで、教職に関する具体的なイメージを持たせるようにしている。

[長所・特色]

本学では、教職課程センター、キャリアデザインセンター、就職支援課、スミス会、数多くの本学卒業の現職教員が連携し、入学から卒業まで、さらに卒業後も含めた教職に関する多様なキャリア支援を継続して実施している。さらに、教育委員会、教育実習受入校、学生ボランティア受入校など、学外の関係各機関・団体とも良好な関係を構築しており、常に、学校現場を意識した教職に関するキャリア支援を学生・卒業生に対して行っている。

[取り組み上の課題]

キャリア支援では、4年生まで教職志望を維持できない学生への対応、配慮がこれまで以上に求められると考えている。3・4年生は、教職に就くか、職業選択に迷う学生も多いと思われる。最後まで教職を諦めない気持ちを持つ続けることへのサポートがより必要になると思われる。また、3年生の学生については、教職への道を断念する学生が毎年度一定数おり、これらの学生に対して、いかに教職の魅力を伝えていくことができるか、が課題となっている。

<根拠となる資料・データ等>

・2022年度北星学園大学シラバス n☆star (北星 ポータルサイト)

<https://pota.hokusei.ac.jp/campusweb/top.do> (参照日 2023 年 3 月 1 日)

・北星学園大学 HP キャリアプログラム https://www.hokusei.ac.jp/carrer/career_program/
(参照日 2023 年 3 月 1 日)

・北星学園大学教職課程センター 北星学園大学教職課程における教員養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/policy_torikumi/

(参照日 2023 年 3 月 1 日)

・北星学園大学教職課程履修ガイド 2022 年度版

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[現状説明]

教職課程の科目のうち、「教育の基礎的理解に関する科目」等、各教科の指導法に関する科目、教育実習に関しては教職課程センターが所管している。教職課程運営部会において検討や調整が行われ、教職課程センター会議の審議を経て、教学会議において審議・決定されている。

「教科に関する専門的事項に関する科目」は、各学科のディプロマポリシー及びそれに基づくカリキュラムポリシーに基づき、各学科の学科専門科目として配置・開講されている。例えば、英文学科では、特別プログラムとして「英語教師養成科目」を開設しており、コミュニケーション力を身に付けさせるという 21 世紀の社会から求められている英語教員の養成を目標として掲げ、中学校教諭 1 種免許状 (外国語)、高等学校教諭 1 種免許状 (外国語) を取得できるカリキュラムを編成している。また、社会福祉学部では、社会福祉制度等を広く学びながら、中学校教諭 1 種免許状 (社会)、高等学校教諭 1 種免許状 (公民) およびこれらを基礎免許とした特別支援学校教諭 1 種免許状の取得を目指せるよう科目を配置している。

「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」は、共通部門の科目として開講されている。

教職課程を含め教育課程にあるすべての科目のシラバスは、本学のホームページ上で公開されており、授業の概要と方法・授業の到達目標・授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後学修)・評価方法が示されている。教職に関する科目では、令和 3 年度の教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正において、教職課程全体を通じた ICT 活用指導力の育成への取り組みが重要視されることになった。これを踏まえ、情報通信技術の積極的な活用、アクティブ・ラーニングの推奨、評価項目による配分の割合、課題 (試験、レポートなど) に対するフィードバック方法の明示がなされている。

本学では、2007 (平成 19) 年度から、千葉県松戸市の聖徳大学通信教育部と提携し、「小学校教諭 1 種免許取得プログラム」を、毎年度の 2 年生から 20 名を上限に実施している。

2021年度までのプログラム参加者数は71名である。このプログラムに参加することで、本学が課程認定を受けている中学校教諭一種免許状を元に、卒業と同時に小学校教諭一種免許状を取得することが可能となっている。

[長所・特色]

教職課程のカリキュラムの編成・実施に関しては、教職課程に関する業務を専門的に担当する教職課程センターによって組織的・効率的に行われている。教職課程を履修する学生に対しては、教職課程のカリキュラムについての説明や履修方法などについては、「教職課程履修ガイド」を発行・配布し、年度始めに学年別の教職課程ガイダンスを実施するとともに、教育支援システムのMoodle、ポータルサイト(n☆star)により随時学生に周知している。

教職課程ガイダンスでは、3年次までの時間割を見通した履修計画の作成、3年次での介護等体験と4年次での教育実習を見通した指導を行い、免許取得に必要な単位の取得と教職課程の履修とが計画的かつ円滑に進行するように注意を喚起している。

さらに教職実践演習については、10人程度のクラスによって編成・実施され、学生たちの密度の濃い対話による学修の深まりや、それぞれの関心や問題に配慮・対応することができる体制が組まれている。

教育実習や教職に関するキャリア支援に関しては、教職支援員が常駐する教職支援室において適切な支援が行われ、迅速かつ組織的な対応ができる体制が整えられている。

「教科に関する専門的事項に関する科目」は、原則として各学部各学科の専門科目として設置されている。このため各学部の専門性に基づいて学術的に水準の高い授業として学生に提供されている。学生は、このような専門的な科目を履修し、取得を目指す教科に関して高度な専門性を修得している。

聖徳大学通信教育部との連携による「小学校教諭1種免許取得プログラム」に参加することで、中学校教諭一種免許状に加えて、小学校教諭1種免許状を卒業と同時に取得し、小学校の教員採用試験を受験し、卒業後、小学校教諭として、教壇に立つことができるようになっている。

[取り組み上の課題]

1年次の教職科目が「教職入門」「教育学」の2科目だけとなっているため、2年次の科目数が多くなっており、学科の専門科目と資格取得のための科目の履修との両立が困難となる学生が見られる。1年次に教職課程を履修した学生が、4年次の教育実習まで、進級年次ごとの履修継続状況を調査した結果、2002年度からの20年間の平均値で、1年次から2年次では、前年次比およそ80%に減少、2年次から3年次では、前年次比およそ70%に減少、3年次から4年次では、ほぼ全員が履修を継続していることがわかった。つまり、1年次に教職課程履修学生が100人いたとすると、3年次において55~56人程度とかなりの人数の履修者減が生じていることになる。その要因として、2・3年次における教職に関する科目と学科専門科目の増加が考えられる。このように、2年次、3年次において、いかに教職に関する科目の履修を継続させるかが課題となっている。また、「教育の基礎的理解に関する科目」、「特別支援学校教諭1種免許状」取得のための科目などでは、6講目(18:00~

19:30)に開講されている科目が少なからずあり、教職課程の履修を断念する要因の一つとなっている。

本学では、2007（平成 19）年度から千葉県松戸市の聖徳大学との提携協定により上述の「小学校教諭 1 種免許取得プログラム」を定員 20 名で開設しているが、これまでの参加者は各年度ひと桁に留まっている。他方、このプログラムの存在が本学の受験動機になっている学生も複数いる。毎年 11 月実施の説明会にも例年 15～16 名程度の 1 年生が参加していることから、1 年生で教職科目を履修する学生の 1 割～2 割はこのプログラムに興味・関心を持っているものと思われる。令和 5 年度採用試験からは小学校の免許状を取得していれば、中学校において教採出願時に 10 点加点されており、札幌市では「小中一貫した教育」推進枠という採用区分が新設されることとなった。中教審等が示す今後の教育の方向性からも教職を志す学生にとって選択肢を増やす意味でも小免プロ参加者への経費の補助（奨学金制度の導入）等により本学の特色のひとつとして活性化させていく方向での検討が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

・2022 年度北星学園大学シラバス n☆star（北星 ポータルサイト）

<https://pota.hokusei.ac.jp/campusweb/top.do>（参照日 2023 年 3 月 1 日）

・聖徳大学との連携による「小学校教諭免許取得支援プログラム」について

https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/seitoku/（参照日 2023 年 3 月 1 日）

・北星学園大学教職課程履修ガイド 2022 年度版

・北星学園大学教職課程年報第 6 号

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

[現状説明]

教職課程センターでは、教育インターンシップ（草の根教育実習）や学校ボランティアなどに関して、北海道及び市町村教育委員会、学校から募集の受付、学生への周知、学生の申し込み受付や調整、説明および事前指導を実施し、学生の学校活動への参加を促し、教職課程を履修する学生の実践的指導力の形成を図っている。

「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、「教育行政論」「道徳の教育の理論と実践」「生徒・進路指導の理論と実践」及び「各教科指導法」に関する科目では、優れた教職経験を有する現職教員や専門家を、積極的に臨時講師として招聘し、具体的な実践事例に基づく講義を通して、学生に実践的指導力の素地が育つように配慮している。

[長所・特色]

札幌市教育委員会との提携による学校ボランティアについては、札幌市の小学校(199 校)中学校(99 校)のうち希望する学校と学生とのマッチングを通じて、毎年度、年間をと

して 20 名程度の学生がボランティア活動を行っている。特別な支援を必要とする児童生徒への対応や教員の指導方法などを実践的に学ぶ貴重な機会となっており、教員採用への意欲向上につながっている。また、北海道教育委員会で実施している「草の根教育実習」には、毎年度 10 名程度の学生が参加し、出身地や僻地校での勤務を 1 週間程度体験しており、北海道の教員として勤務するイメージの醸成につながっている。その他、各教育委員会が主催する「札幌市教師夢プラン」(札幌市教育委員会) や学校サポーター(北海道教育委員会等) への積極的な参加を推奨するとともに、教員育成指標を活用した講義をとおり教員としての実践的指導力の育成に努めている。

また、小学校の出前授業や学内でのミニオープンキャンパスで教職について講演する際に教員のサポート役として参加する機会を設定する、模擬授業の小集団での反省会、教採対策の教科勉強会等を行うとともに、教職課程履修ガイドに掲載している卒業生の体験談や 4 年次学生との懇談を通し、教員としての資質を高め、教職への意識向上を図っている。

教職支援室には、教員経験者(うち 1 名は教育委員会指導主事及び校長経験者)を配置しており、教職課程履修、教育実習等に関する相談対応の他、教員採用候補者選考検査の願書添削、面接指導等を行うとともに教員採用試験問題をデータ化し学生が随時活用できるようにしている等、学生のニーズに寄り添った対応が行われている。また、教職関連の情報発信や学生主体の勉強会への支援、ワールドカフェの実施(学生主体の教職採用等に関するグループ意見交換会)により、学生が教職に興味関心を持ち、実践力を高めるための支援を行っている。加えて講義等で使用するタブレット端末や電子黒板の管理及び環境整備(iPad Chrome book)も行っており、自主的に模擬授業等の練習を行う学生がいつでも機器を活用できるよう、使用に関する指導もなされている。

[取り組み上の課題]

教職の魅力伝えること、教職課程履修に関する支援など、教員としての資質や適性を有するより多くの学生を教職課程履修へ勧誘していくことが課題としてあげられる。さらに、実際の授業に触れる機会の確保のため、近隣の学校や学園内の中学校、高等学校での教育活動への観察・参加といった、教育実習を行う前に学校のなど、学生の実践的な指導力の育成のための機会を設定することが望まれる。

学園内の高等学校から本学に入学した学生には、一定数の教職課程の履修者がおり、教職に就く学生もいる。教職に就くことを考えている生徒に対して、その教職への意識を高め、必要とされる資質と能力を身につけるために、高等学校在学中から大学の教職課程へと連続した支援を行うプログラムの研究開発を検討することも考えられる。

教職課程を履修する学生への情報伝達、情報共有の手段にも課題があると思われる。教職課程から情報を発信しても、学生になかなか届かないという状況が生じることがある。教職に関する学内外の取り組みを伝え、参加を促すことで教職への意欲を向上させることが期待される。また、教職を目指す学生の縦・横につながる場が設けられることも、けだし有効であろう。今後、教職課程を履修する学生に、さまざまな情報の提供、教員からの働きかけ、情報の共有などが、タイミングよく効果的に行えるような手段の工夫が必要と思われる。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・北星学園大学教職課程履修ガイド 2022 年度版
- ・北星学園大学教職課程年報第 6 号

Ⅲ 総合評価

1 基準領域 1～3 について、それぞれに課題をかかえながらも、いずれの領域においてもパッサブルな評価をしてよいと思料する。

基準領域 1 「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」の基準項目 1-1 「教職課程教育の目的・目標の共有」については、建学の精神に基づき、各学科・各研究科において、いわゆる 3 ポリシーを設定し全教職員に周知するとともに、教職課程独自のディプロマポリシーを策定し、育成する教師像を全教職員に周知している。

基本項目 1-2 「教職課程に関する組織的工夫」については、教職科目担当者だけではなく教科に関する科目担当者も参加する全学的な組織である教職課程センターが 2022 年度から設置され、教職支援室を通じての教職志望学生への実践的サポートが日常的になされているという組織的工夫が試みられている。

基準領域 2 「学生の確保・育成・キャリア支援」の基準項目 2-1 「教職を担うべき適切な学生の確保・育成」については、教職履修カルテを活用した教職課程への意識付け、「指導案」を通じての「教科に関する科目」教員の教職課程への関わり、教育委員会との連携による教育現場におけるボランティア活動への取り組み等を通じてその要請にひとまず応えている。

基準項目 2-2 「教職へのキャリア支援」については、教職課程センター、キャリアデザインセンター、就職支援課、スミス会、数多くの本学卒業の現職教員が連携し、入学から卒業まで、さらに卒業後も含めた教職に関する多様なキャリア支援を継続して実施している。

基準領域 3 「適切な教職課程カリキュラム」の基準項目 3-1 「教職課程カリキュラムの編成・実施」については、各年次の毎春の教職課程ガイダンスで、3 年次までの時間割を見通した履修計画の作成、3 年次での介護等体験と 4 年次での教育実習を見通した指導を行い、免許取得に必要な単位の取得と教職課程の履修とが計画的かつ円滑に進行するように注意を喚起するとともに、10 人程度のクラス編成で教職実践演習を行い対話形式による学修の深まりやそれぞれの関心や問題に配慮・対応することができる体制を組むことで、ひとまず要請に込えていると考える。

基準項目 3-2 「実践的指導力育成と地域との連携」については、札幌市教育委員会との提携による学校ボランティア、北海道教育委員会で実施している「草の根教育実習」を通じて地域との連携を図りつつ実践的指導力育成に取り組むとともに、教職支援室において学生のニーズに寄り添った、ICT の活用を含む実践的な学生サポートが行われている。

2 以上のようにひとまずパッサブルであると自己評価できるとしても、種々の課題があることは各項目に示されたとおりである。とりわけ、本報告書冒頭の学長評価にも記されているように、教職科目担当者だけではなく教科に関する専門科目担当者も加わった全学組織としての教職課程センターがつくられたが、両科目の担当者のより良い「協働」のあり方の模索が求められる。その際、両科目担当者それぞれが教員養成における自身の役割（特に、法令上の役割）を再確認するとともに、両科目担当者相互の理解を築くことが出発点と思われる。また、不本意な教職志望断念事例を減らしていくべく、さらなる状況分析を行い、可能な対策の模索が必要と考えられる。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学の教職課程は、3 研究科 3 専攻、3 学部 8 学科（2022 年 5 月 1 日現在）で教育展開しているが、これらの課程を円滑かつ効果的に実施する全学組織として、教職課程センターが設置され、教職運営部会と教職課程センター委員会により運営されている。

当自己点検評価報告書は、教育職員免許法施行規則第 22 条の 8 に規定される自己点検及び評価を実施するものであるが、一般社団法人全国私立大学教職課程協会による「教職課程自己点検評価基準」を参考とし、本学の学部学科教育課程の展開状況から、各基準項目毎に教職課程の専任教員が各課程の法令由来事項等を点検、評価した第 1 次原案を作成し、教職課程センター委員会及び教学会議で承認されたものである。

V 現況基礎データ一覧

令和 4 年 5 月 1 日現在

法人名 学校法人北星学園
大学・学部名 北星学園大学（文学部、経済学部、社会福祉学部、文学研究科、経済学研究科、社会福祉学研究科）
学科・専攻名 文学部：英文学科、心理・応用コミュニケーション 経済学部：経済学科、経営情報学科、経済法学科 社会福祉学部：福祉計画学科、福祉臨床学科、福祉心理学科 文学研究科：言語文化コミュニケーション専攻 経済学研究科：経済学専攻 社会福祉学研究科：社会福祉学専攻

1 卒業者数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					
①	昨年度卒業者数				919
②	①のうち，就職者数 (企業，公務員等を含む)				714
③	①のうち，教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				40
④	②のうち，教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)				15
④のうち，	正規採用者数				9
④のうち，	臨時的任用者数				6
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	90人	26人	12人	2人	
相談員・支援員など専門職員数		22人			